

インターバンクの声（2015 年 4 月 3 日）

米新規失業保険申請件数の予想よりも強い内容や、2月の米貿易収支の赤字額が5年数ヵ月ぶりの低水準にまで縮小する材料があったにも関わらず、ドルに意外に上昇力が付かず、むしろユーロの対ドルでの買戻しが目立った。なかなか決着に漕ぎ着けられないギリシャ支援協議が来週も続けられることが明らかになり、協議進展への期待感が残ったことや、米雇用統計への弱気側予想に備えるドル売り調整が勝っていたことなどが背景だったようだ。毎月初金曜日の米雇用統計への大きな注目は、半ば市場の行事と化しており、この状態もかれこれ5、6年以上続いているのではないだろうか。さすがに直近数ヵ月は惰性になり始めていた感も否めないが、今晚の雇用統計への注目度は相当高いようだ。米連邦準備制度理事会（FRB）が6月や9月の利上げを開始するのか、或いは年内の利上げ開始が明確に年明けにまでずれ込むのかの最終的な判断材料になるとの見方が多いためだ。いや、4月1日の民間ADP社の雇用統計からは、可能性は低いものの、FRBの利上げ開始そのものが消えることになるかもしれないとの予想まで出始めているせいでもあるだろう。久々に想定外の相場になるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。